

ねらい

生き物に関心をもち、思いを寄せて考える。
自分の思いや考えを友達と伝え合ったり、友達の考えに刺激を受けたりする。

小学校教育への
つながり

環境や援助

- ・生活科「いきものとなかよし」などにつながる、身近な生き物を飼育したり、生き物を大切にする心を育んだりする機会になる。
- ・友達の表情をみたり、感じたりできるよう円になって座り、話す時間をもつ。
- ・子どもたち同士の思いの伝え合いが活発になるように見守り、必要に応じて言葉を付け足したり、尋ねたりして、子どもたちの仲間として一緒に考えていく。

実践内容

クラスで大切に育てているカエル。育てている中で気づいたことや思ったことを「カエルがいぎ」の時間をつくってみんなで共有し、日々相談している。この日は週末にカエルを持ち帰った子どもの気づきをクラスで共有した。

自然との関わり・生命尊重

言葉による伝え合い

カエルがご飯を食べなくなってる！

ぼくが前ご飯をあげた時も食べなかった

冬眠してるんじゃない？

ご飯を食べなくなるんだよ

そうだよ、冬眠だよ！

冬眠って何？

...

どうして...？

冬眠というワードが出てきたけれど、子どもたちは“冬眠”をどのようなものだととらえているのだろう...

担任



思考力の芽生え

カエルの冬眠について記載された絵本をみんなで見ることに。

寒いから冬眠するんだ！

寒いと死んでしまうかも！

寒くなってきている、どうしよう！

冬眠したいのかな

いいね！土を入れてあげよう！

冬眠できるおうちにしておこうよ

2匹いるから2つつくろう！

虫かごに壁をつくるのもいいんじゃない？

潜れる穴を2つ掘っておくといいんじゃない？

つかまえた場所に返してあげるのもいい気がするなあ

たしかに...それもいいかも...！

お母さんもいると思う！

私もそう思う！仲間がいっぱいいるかも！

寒くなる前に返してあげよう！

早く返してあげよう！

相談した結果、寒くなる前につかまえた場所にカエルを返すことに。

保育を振り返って

みんなで育てているカエルについて子どもたち同士で感じたことを共有し、自分だけでは気がつくことのなかった考えに出会い、心を揺らしたり考えが深まったりしていった。その中でカエルに寄り添ったり、大切に思ったりする気持ちも日々膨らんでいったように感じる。今回、エサを食べないカエルの様子に気づいたことをきっかけに、子どもたちは冬眠について知っていった。生き物の不思議さ、観察する面白さを感じたとともに、命の尊さ、大切さを実感する感じる機会になったと考える。